

「デング熱」の感染症例確認について

1 概要

県内医療機関より、海外渡航歴がなく、東京都立代々木公園周辺への訪問歴があり、症状からデング熱を疑う患者が発生した旨の連絡がありました。当該患者から採取した検体について衛生研究所で血清中のウイルス非構造タンパク抗原（NS1抗原）検査を実施したところ、デング熱ウイルス抗原陽性であることが判明しましたので、以下のとおりお知らせします。

本疾病は、ウイルスに感染した患者から蚊を媒介して感染します。人から人に直接感染することはありません。

予防対策としては、蚊に刺されないように注意することです。蚊に刺されて3～7日程度で高熱が見られた場合は、医療機関を受診するようにしてください。

2 患者の概要等

(1) 患者：20歳代男性、中央西福祉保健所管内在住。海外渡航歴なし。

蚊の刺咬歴 9月4日に代々木公園周辺で刺された。

(2) 経過：9月4日 東京に出張し、代々木公園周辺で蚊に刺される。

9月10日 発熱

9月10日 高知市内の医療機関を受診

9月12日 血小板減少がみられたため、医師より高知市保健所に連絡。

衛生研究所の検査でデング熱の感染を確認。

(3) その他：帰高後は、蚊に刺されていない。発熱はあるものの症状は安定している。

3 対応について

・医療機関に対して、デング熱の国内での感染が疑われる患者について速やかに情報提供されるよう周知しています。

4 デング熱について

(1) 発生状況

・アジア、中南米、アフリカなど熱帯・亜熱帯地域に広くみられ、世界中で毎年5,000万～1億人の患者が発生していると考えられています。

・日本では、海外で感染して帰国後に発症する症例が年間200例ほど報告されています。

(高知県では、平成25年は3例、平成26年は1例)

・過去60年以上国内における感染報告はありませんでしたが、2014年8月以降、代々木公園で感染したとみられる症例が国内で発生しています。

(2) 感染経路

・ウイルスを保有した蚊（ヤブカ類）に刺されて感染します。人～蚊～人の経路で感染し、人から人への感染はありません。

・国内では、ヒトスジシマカが媒介すると考えられ、ヒトスジシマカの活動範囲は50～100メートル程度で、活動時期は5月中旬～10月下旬ごろまでで、蚊は越冬しません。

(3) 症状

・潜伏期間は2～15日（多くは3～7日）で、突然の高熱、激しい頭痛、目の痛み、関節痛、筋肉痛、発疹のほか、血液検査で血小板減少、白血球減少がみられます。症状は1週間程度で回復すると言われていています。重症化することはいくつかあります。なお、人が感染してもデング熱を発症する頻度は10～50%です。

5 感染予防方法

蚊に刺されないように注意してください。

・長袖、長ズボンなどを着用して素足のサンダル履きなど皮膚の露出を避ける。

・虫除け剤等を使用し、屋外だけでなく屋内でも蚊に刺されないように注意する。

・室内の蚊の駆除を心がける。

・蚊の幼虫（ぼうふら）の発生源（水たまり）を作らないように注意する。

6 相談窓口

デング熱に関することは、最寄りの保健所へご相談ください。

7 参考となるホームページ

・厚生労働省ホームページ「デング熱について」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever.html

・国立感染症研究所ホームページ「デング熱とは」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ta/dengue.html>

※高知県では、日本一の健康長寿県構想を策定し、
県民の健康づくりを重点的に進めています。

担当課：高知県健康対策課

担当者：内川・宮地

電話：823-9677